

## 発見！わがまち



国内の人口減少が進む中、労働者の多様で柔軟な働き方を実現しつつ、労働生産性向上を目指す企業の取り組みは、「持続可能な開発目標（SDGs）」の「働きがいも 経済成長も」の理念に通じる。矢巾町広宮沢の設備サービス業・信幸プロテック（村松守社長）は、働き方の見直しを通じて業務効率化を実現し、従業員が仕事にやりがいを感じられる職場風土を醸成している。

6月下旬、同社経営管理部の松下花奈子さん(29)は、住宅設備部の男性スタッフが作業する矢巾町内の現場に同行した。エアコンの取り付けの様子を見ながら「現場で気をつけているポイントは何ですか」などと質問し、メモを取った。

普段は社内で図面を書く業務を担っている松下さん。「作業を実際に見たり聞いたりすることで、自分の業務の幅が広がる。現場のスタッフに対し、一歩踏み込んだサポートができるようになった」と話す。

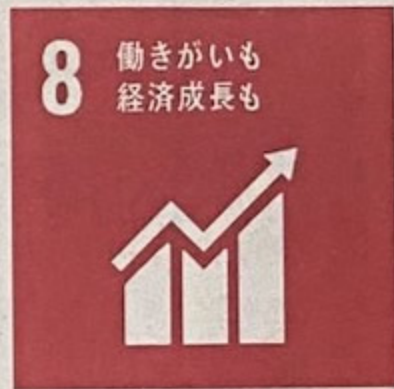
現場同行の取り組みは、2017年に経営管理部が始めた「カエル会議」から生まれた。会議の名称には、早く「帰る」、仕事のやり方や人生を「変える」という意味が込められている。

同会議を始めたきっかけについて、村松直子専務(46)は「結婚、子育てや介護など、仕事以外での従業員の役割も増す中、

## 業務効率化で好循環

働き方の見直しは会社全体に関わる重要な課題だと思った」と語り、実行に移した。

同会議では、現場同行のほか▽業務の洗い出しと業務分担の見直し▽スタッフの皆が迷わずに業務を進められる手順書作成



▽終業後や休みの日にやりたいことこの発表、共有などを提案し、実行に移した。

経営管理部の一連の取り組みは他の部署にも波及。村松専務は「各部署で、自主的に効率的な仕事のやり方を考えるようになったことが大きな成果」と手応えを感じている。

(第2木曜日に掲載)

◎ 持続可能な開発目標（SDGs） 2015年に国連サミットで採択された国際目標。「誰一人取り残さない」を基本理念に、環境破壊や人権侵害をなくし、全ての人々が豊かに暮らす世界の実現を目指す。男女平等や水資源・地球温暖化関連、経済成長など内容は多岐にわたる。「働きがいも 経済成長も」など17の目標と、具体的な取り組みとなる169のターゲットを掲げて普及を図っている。



エアコン取り付けの現場に同行し、作業の様子を確認する経営管理部の松下花奈子さん（左）